様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　５ 月 ３０ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｋ００３３５

研究課題名（和文）『寝覚物語』に関する基礎的研究の再検討と新提言

研究課題名（英文）A basic study of Heian literature, NEZAME MONOGATARI

研究代表者
中西　健治（NAKANISHI, Kenji）

立命館大学・文学部・授業担当講師

研究者番号：９０２２７８３５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：　平安時代後期に成立し、物語文学史上、大きな達成をはたした物語として評価されてきた『寝覚物語』を対象にして、書誌学的、文献学的側面から再検討を加え、その文学的価値を明らかにした。とりわけ、『寝覚物語』にあらわれる個々の言葉に注目しながら基礎的研究を積み重ねた点、『源氏物語』をはじめとした物語との関係性を再検討した点、また、現存する写本のうち、前田家本を高く評価すべきであることを論じた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　旧来の『寝覚物語』の研究は、物語内容に注目した考察が中心となり、十分な基礎的研究がなされているとは言い難かった。本研究は、そうした研究を見直し、改めて、『寝覚物語』の物語文学史上の価値を再検討した点に評価すべき点がある。特に、現存する『寝覚物語』の全写本を調査し、既存の研究成果と比して見直すべき部分をいくつも提案できた点は、『寝覚物語』研究を大きく前進させる契機になると考える。

研究成果の概要（英文）：　This study focuses on NEZAME MONOGATARI written in the late Heian period, which has been highly regarded as a story of great achievement in the history of narrative literature. In particular, we conducted basic research focusing on individual words in NEZAME MONOGATARI, and reexamined its relationship with The Tale of Genji and other tales. Furthermore, we discussed the high value of the MAEDA KE BON manuscripts.

研究分野：日本中古文学

キーワード：寝覚物語　夜の寝覚　平安朝文学　諸本　異文　享受　注釈　源氏物語

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

(1)　仮名散文によって書かれた物語文学史の見取り図を描くとすれば、『竹取物語』を始発として、『伊勢物語』や『うつほ物語』へと展開し、『源氏物語』という頂点に結実する形を想起することができる。そして、『源氏物語』以後に成立した物語は、『源氏物語』を継承、批判しつつ、新たな物語世界を開拓しようと書かれ続けてきた、と把握できる。

(2)　そうした中で、近年、『源氏物語』以後の物語への関心が高まっている。鎌倉、室町時代に成立した物語を収める『中世王朝物語全集』（全 23 冊、笠間書院、1995 年～続刊）の刊行が開始されるなど、『源氏物語』以後の物語がもつ文学史的意義が問い直されつつある、といってよい。

(3)　『源氏物語』以後の物語のひとつであり、平安時代後期に成立した『寝覚物語』（『寝覚』『夜の寝覚』『夜半の寝覚』とも称される）は、中間と末尾に大きな欠巻部分をもちながらも、物語文学史上、大きな達成をはたした物語として評価される。この物語の研究は、藤田徳太郎・増淵恒吉『校註夜半の寝覚』（中興館、1933 年）をはじめ、関根慶子・小松登美『寝覚物語全釈』（学燈社、1960 年）や永井和子『寝覚物語の研究』（笠間書院、1968 年）、近年になっても、大槻福子『『夜の寝覚』の構造と方法　平安後期から中世への展開』（笠間書院、2011 年）や宮下雅恵『夜の寝覚論　〈奉仕〉する源氏物語』（青簡舎、2011 年）の刊行があり、充足した考察がなされ続けてきた。そして、そこでは、『寝覚物語』が、登場人物たちの複雑な心理を克明に叙述し、人間の内面の揺れ動きを描くことによって物語を構成していこうとする、確かな特色と達成を示している点が明らかにされてきたのである。

２．研究の目的

(1)　物語を形づくる特有の表現、また、ひとつひとつの言葉に対する丁寧な分析、そして、現存する諸伝本に対する研究は、あらゆる文学研究の基盤といって過言ではない。『寝覚物語』以前に成立した『源氏物語』に関する研究を例に挙げてみると、たとえば、中古文学会関西部会編『大島本源氏物語の再検討』（和泉書院、2009 年）などのように、『源氏物語』の基礎的研究を書誌学的、文献学的側面から再検討した考察が、『源氏物語』研究を大きく推進させた事例を挙げることができる。

(2)　しかしながら、『寝覚物語』の場合、上述したとおり、物語内容に関する研究は盛んでありながら、その基礎的研究に目を向けると、たとえば、野口元大『夜の寝覚研究』（笠間書院、1990 年）が現存する全 7 本の写本の相互関係を明らかにし、高村元継『校本夜の寝覚』（明治書院、1986 年）がこれらの校合資料を提供して以降、現存写本に対する考察は、ほとんど等閑視されてきた。さらに、近年、現存する写本には欠けている欠巻部分にかかわる資料（抜書や古筆断簡）の新発見が相次いでいるものの、その研究はこれらに書かれている物語内容に注目したものばかりであり、欠巻部分関連資料自体への目配りが十分になされているとは言い難い。

(3)　すなわち、現在の『寝覚物語』研究は、各資料の文字情報だけが利活用され、現存する写本そのもの、また、新たに発見された欠巻部分関連資料そのものに対する書誌学的、文献学的考察が不十分なままになっていたのではないか。

(4)　上記の研究状況をふまえ、本研究では、従来の『寝覚物語』研究を見直すため、書誌学的、文献学的側面から、現存写本、および、欠巻部分関連資料にかかわる基礎的研究の再検討を行い、この物語の研究を新たな段階へと推し進めていくことを目的にする。

３．研究の方法

(1)　本研究では、第一に、現存する全 7 本の写本を、網羅的に実見調査した上で、書誌学的、文献学的側面から分析を行う。これによって、高村元継『校本夜の寝覚』（明治書院、1986 年）に散見される誤りを修正する他、各写本における巻区分や言葉に対する意識の解明、『寝覚物語』のみにみられる特殊語彙の解明、書き入れ注記の実態解明など、現存写本がもつ情報を検証し、物語の読解へと還元していく。また、現在、『寝覚物語』研究は、善本とされる肥前島原松平文庫が所蔵する島原本をもとにした校訂本文でしか読まれていない。研究を相対化し、活性化していくため、同じく善本と考えられる前田育徳会尊経閣文庫が所蔵する前田本による校訂本文の作成にも取り組む。さらに、写本の調査にあわせて、各写本の伝来や本文異同が発生したメカニズムの分析も行う。『寝覚物語』の場合、既に写本相互のおおよその書承関係は明らかになっており、本文系統論も構築されているのであるが、そうであるからこそ、本文異同とは何か、本文系統論とは何か、といった問題を再検討する好材料であり、他の作品を対象とした研究への波及効果をもつ有益な研究成果が期待できる。

(2)　第二に、欠巻部分にかかわる資料を収集、探索し、実見調査した上で、書誌学的、文献学的側面から分析を行う。上記した現存写本が総じて江戸時代以降の書写に限られることに対して、欠巻部分にかかわる資料は、平安時代書写の「寝覚物語絵巻詞書」や南北朝時代書写の「夜寝覚抜書」、「伝後光厳院筆古筆断簡」といったように、それぞれに位相差が存在する。それにもかかわらず、従来の研究では、この位相差に特段の考慮がなされず、書かれている物語内容ばかりに注目が集まっていた。本研究では、実見調査によって得ることのできる書記様態や書写年代などの情報、また、それぞれの資料が作成された背景の違いといった位相差を考慮しながら、どのようなかたちで相互に関連付けて『寝覚物語』の読解に反映していくべきか、再検討を進めていく。

４．研究成果

(1)　『寝覚物語』を構成する言葉に注目することから、この物語に見られる「物語のついでに」という表現が、「ついで」とはしながらも、帝と大皇の宮との対面（巻三）、帝と中宮との対面（巻四）、男主人公と中宮との対面（巻四）、また、女主人公と父入道との対面（巻五）など、きわめて重大な事態を告げる場面で用いられており、大きく展開する物語を引き出す際の、いわば指標のように用いられているのではないかと考えられることを明らかにした（中西健治「「物語のついでに」覚書き―寝覚物語注釈（一）―」）。

(2)　『寝覚物語』を構成する言葉に注目することから、「まめやかに」の誤りとされることもある「さめやかに」について、現存する全７本の写本の本文、さらには、『源氏物語』の本文も検証することによって、「さめやかに」を、「冷む」の形容動詞化したものとして自立した語として認めるべきであることを明らかにした（中西健治「寝覚物語「さめやかに」について―寝覚物語注釈（二）―」）。

(3)　『寝覚物語』を構成する言葉に注目することから、宮中将が但馬守三女に語った（と伝聞の形で男主人公へ伝えられる）「親に知られて」を「親に知られで」と解釈すべきである点、また「さりげなし」という表現が、他の物語に比べて『寝覚物語』に突出して多く、その理由として、この表現が、きわめて深刻な心理状態にありながらも、それとは反対の抑制した心理や振る舞いをあらわし、人物の内面を浮き彫りにするための適切な語の一つであったと考えられる点などを明らかにした。このことはまた、『寝覚物語』の求めた表現のありかたが、人物の内面描写に注目し、深刻な心情をくみ取らせようとしたことにあり、その反映であると考えることができる（中西健治「寝覚物語注釈礎稿―「さりげなし」など―」）。

(4)　『寝覚物語』を構成する言葉に注目することから、男主人公と女主人公のあいだを結ぶ仲介役であった対の君に、「人知れぬ」という言葉を語らせることによって、本来は女主人公の拒絶を表現しなければならない場面であるにもかかわらず、恋のかけひきの場面としての風貌をまとっていくことになる物語の特殊な方法を指摘した。さらに、これは、『寝覚物語』が『源氏物語』の趣向を読みとることによって獲得した方法であると考えられることも明らかにした（須藤圭「「人知れぬ」恋の方法―夜の寝覚と源氏物語花散里巻の解釈―」）。

(5)　『寝覚物語』の享受のありかたに注目することから、諸外国における『寝覚物語』享受史の分析を行った。特に、『寝覚物語』を含む『源氏物語』以後に成立した物語をどのように紹介、翻訳していくかという立場において、先行する物語や和歌を引用、類推させる物語の方法をどのように扱っていくべきか、いくつかの問題点を指摘した（須藤圭「『源氏物語』以後の文学をどのように翻訳するか―中古に受容された『源氏物語』―」）。

(6)　研究代表者が所蔵する、『寝覚物語』の最重要伝本である前田家本の複製本に見られる多量の書き込みを分析することで、黒川本、また、石川徹『校注夜半の寝覚』（武蔵野書院、1981 年）とのかかわりを発見し、『寝覚物語』享受史の一端を解き明かした。なお、石川徹『校注夜半の寝覚』（武蔵野書院、1981 年）は、多くの注釈書の中で歯切れがよく、腑に落ちることがままある良書でもあることも、改めて、確認することができた（中西健治「前田家本寝覚物語（複製本）の書き込み」）。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 須藤圭	４．巻 31
２．論文標題 近世中期の源氏物語享受一斑―萩原宗固と仙源抄―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 福岡大学日本語日本文学	６．最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中西健治	４．巻 2
２．論文標題 寝覚物語注釈礎稿―「さりげなし」など―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 寝覚物語研究会会報	６．最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中西健治	４．巻 1
２．論文標題 前田家本寝覚物語（複製本）の書き込み	５．発行年 2021年
３．雑誌名 寝覚物語研究会会報	６．最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 須藤圭	４．巻 -
２．論文標題 『源氏物語』以後の文学をどのように翻訳するか―中古に受容された『源氏物語』―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 海外平安文学研究ジャーナル《中国編2019》	６．最初と最後の頁 21-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西健治	4．巻 8
2．論文標題 「物語のついでに」覚書き―寝覚物語注釈（一）―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 平安文学研究・衣笠編	6．最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西健治	4．巻 8
2．論文標題 寝覚物語「さめやかに」について―寝覚物語注釈（二）―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 平安文学研究・衣笠編	6．最初と最後の頁 12-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 須藤圭	4．巻 8
2．論文標題 「人知れぬ」恋の方法―夜の寝覚と源氏物語花散里巻の解釈―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 平安文学研究・衣笠編	6．最初と最後の頁 52-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	須藤　圭 (SUDO Kei) (70706613)	福岡大学・人文学部・准教授 (37111)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関